組

1-3稿

杉浦シロ

　人　物

主人公（２１）大学生　男

彼女（２１）大学生　女

友人（２１）大学生　男　ホモ

支配人（５０）男性女性どちらでも可能

教授（６０）男女どちらでも可能

男性Ａ（２１）駅で飛び込み自殺をする

乞食いＢＣＤＥＦＧ（７～６０）６人以上　男女

大学生Ｈ（２２）真面目　男

就活群団（２２）エキストラ　１０人以上

怒鳴る店番　１人

怒鳴る着ぐるみ男　１人

怒鳴る店主　１人

クラブで見かけた逆立ちする人　女  
クラブの人々（）エキストラ

バーに入っていく人々（）エキストラ

組体操をする人々（２０～５０）エキストラ

フードを被った集団ＩＪＫＬＭ（２０～３５）不良アーミー系マスクフード　５人　男

刑事（３０）１人　男

警察ＮＯＰＱ（２５～３０）４人　男

撮影の注意

喋るシーンは原則カメラに一人しか映さないこと、どんな時も真正面から１Ｓ撮影。

例外

グループ出演者は映す。

主人公と彼女のみ同じ画面に同時に映す。

全体像を撮るときは魚眼レンズで上から、監視カメラ目線で撮影する事。

コンセプト

「自由と自己責任を描く緩いディストピアドラマ」

世界観

自由が推奨されている現在の日本、第二次世界大戦の反省として、集団の危険性を説き同調圧力の恐怖を教え、そして今が自由であることをひたすら国民に訴えている現状

なのでこの映画では、集団で動いているのは「悪い奴ら」だと思ってください。

過去の反省を踏まえ自由と言っているが、自由の名のもと自己責任自己救済で体よく国民を見捨ててるのが本音、

集団を作らせない＝反社会勢力を作らせないためでもある

法律で集団を作ることは規制してないが、国民全員が無意識に集団でいる事を良いと思ってない。

今の日本らしい都合の良く勝手な解釈として、それを証拠に集団就職があり、（名前を群団にすることで回避）秘密警察っぽい組織も出てきます。

安田純平がテロリストから解放された際に、全国で自己責任論が出ました、この世界の住人は全員、安田純平は自己責任だから助けないで当然と思ってる人たちの気持ちで演じてください

美　術

できるだけあちらこちらに注意書きの看板を貼ってください

主人公がプレイするゲームは全てバトルロイヤル物です。

○主人公の部屋（朝）

一人暮らしの部屋で、ＰＣＢＧゲームをプレイする主人公（２１）。

タイマーが鳴る。主人公、ゲームをやめ、荷物を持って出て行く。

○地下鉄・ホーム（朝）

主人公、ホームドアの近くで電車を待っていると、同じぐらいの年の男性Ａが隣に来る。主人公、少し気になり男性Ａを見る。

男性Ａ、軽く会釈し、ホームドアをよじ登り始める。

主人公、驚きとどうすればいいんだと処理が追い付かずただ見ている。

しばらくたったあと電車が来るタイミングで暗転しタイトル表示。

○タイトル

『組』

○大学・教授室

教授「だめだ、遅刻は遅刻」

主人公「人身事故ですよ？　今回の遅刻は不可抗力です。遅延証明書もありますし、ニュースにもなってるじゃないですか」

教授「自己責任だ。こんなんじゃ社会で通用しないぞ」

さらにあきれる主人公。

教授「普段から遅刻欠席をしなきゃいいだけの話だ」

主人公、ため息をつく。

教授、煙草を取り出し吸い始める。

教授「大学生なんだから自分の行動に責任を持て」

主人公「救済措置は？」

教授「あきらめなさい」

主人公「分かりました」

教授「分かればいい」

主人公「あの、教授」

教授「ん？」

主人公「ここ禁煙ですよ」

教授「いいんだよ、ここは俺の部屋だ」

主人公「もし火事になったら」

教授「うるせえ、それぐらい自己責任承知だからいいんだよ」

主人公、逃げるように部屋を出て行く。

○大学・食堂

主人公、昼飯のトレーを持ち、歩いている。

放送の声「最近、窃盗や暴行などの犯罪が多発しています。犯罪に巻き込まれないために日ごろから注意しましょう。危険な場所には……（フェードアウト）」

主人公、昼飯のトレーを持ち、席に座る。

友人「どうだった？」

主人公「無事に落とした」

友人「おめでとう」

周りにいる乞食が主人公の食事を見つめている。

主人公「遅らせた原因のやつに責任を取らせたいよ。たく、死ぬんだったら他の所で死んでくれよ。こっちに迷惑かけやがって」

友人「まあ、普段から授業出てれば今回遅刻しても問題なかったんだから。結局はお前が悪い」

主人公「落単が自己責任なのは分かってる。自分でも、ちゃんとした生活を送って、ちゃんと通いたい気持ちはあるんだ」

友人「当たり前だけど、ちゃんとしないと自由のツケがつくね」

主人公「気持ちだけは大学に向かってんだ」

乞食い、だんだんと主人公の方を見始める。

友人「一人暮らしってやっぱ大変なの？」

主人公「寝て起きてゲームする。そんで寝坊する。ぐらいかな」

友人「そう考えるとメリット無いね」

主人公「でも、親が居ないから好きな時にエロサイト見れるし、いつでも発射できるよ」

友人「せっかくの自由をもっと有意義につかいなさいよ」

主人公「分かってはいるよ。でも結局寝るかシコるかになってんだよ」

友人、笑う。

主人公「あ～もう食えない」

だんだんと近づいてくる乞食たち。

友人「自分で大盛りを選んだんだから、自己責任だって」

主人公「いけると思ったんだけどな～」

友人「じゃあ、先行ってるわ」

友人、席を立つ。

×××

しばらく主人公は口に食べ物をほおばる

×××

限界がきて残すことに、そして荷物を肩にかけ準備をし、ゆっくりと席を離れる。

それと同時に主人公が席を離れるのを見計らって、見た目は普通の格好をした乞食いたちが一斉に残飯に群がる。

主人公「待て」

主人公、席に戻り、残ってたお茶を飲み、席を離れ、

主人公「よし」

その声を合図に乞食たちは獣のように残飯を食い始める。  
アナウンス「こちらは大学生活課です、最近、犯罪やトラブルに巻き込まれるケースが増えています、大学生の自覚を持ち責任をもって行動しましょう。そのため危ない場所には近づかない夜や人通りの少ない道を歩くのは避けましょう、もし犯罪を見かけた方はお近くのあなたの安全と自由を守る警察へ通報してください」

○大学・広場

【引きで撮る】

主人公、ベンチに座りゲームをしている。

彼女、主人公の隣に座る。

彼女「またサボってんの？」

主人公「あ、４限の授業休みだっただけ」

彼女「単位落としたんだって？」

主人公「なんで知ってんの？」

彼女「なんか事情があってもそれが社会なんだから、次からは気を付けた方がいいよ」

主人公「だよなー。次からは気を付けるよ」

彼女「じゃあ、クラブ行こ」

主人公「うん」

○大学・広場近くの一角

主人公と彼女、大学を出ようと歩いている。

大学生Ｈ「おいおまえ、昨日の群団就活説明会の練習さぼってたよな」

主人公、やばいとふきげんな顔をする。

大学生Ｈ「あと１０分ぐらいで終わるからお前も参加しろよ。最低限のやり方を知らないと就活でかなり不利だぞ」

主人公「（彼女に）ごめん」

彼女「んじゃ、現地集合で」

×××

主人公と大学生Ｈ、群団就職説明会の練習を行う。

【練習内容：人に歩幅を合わせずバラバラに歩くことを続ける】

【監視カメラ視点と主人公の顔のみでここからは撮影してください。練習中にずっとまじめな大学生Ｈの説教と指摘が入ります】

×××

大学生Ｈ「そこ、歩幅があってるぞ」

×××

大学生Ｈ「いい感じだぞ」

×××

大学生Ｈ「いいか、人は無意識に人と合わせようとしてしまうんだ、それが段々と同調圧力や集団暴走に代わっていき、過去に日本は悲劇を繰り返してきたんだ」

×××

大学生Ｈ「人と合わせるような学生は個性を大事にする今の社会では落とされるぞ」

×××

大学生Ｈ「人と合わせてしまうこと、すなわち今までの例を見ても悲劇につながるだけだ」

×××

大学生Ｈ「これは重要だぞ、少しでも歩幅があってると次の群団就職説明会で低評価がつけられ最悪ブラックリストいりだぞ」

×××

大学生Ｈ「よしラスト一回！　いいぞ、いいぞ！　よっしゃーーみんなバラバラだったぞーおめでとー」

わーいと全員喜ぶ。ハイタッチさせない。全員ひとりで「よっしゃー」する。

【もしくは、無表情な主人公の顔だけ写す】

○商店街・道（？）

【セリフは無し。商店街の様子を映してください】

主人公、歩いている。

泥棒お断りの看板。

やたらとにらんでる店主。

風船配りをしながら怒鳴る着ぐるみ男。

主人公に近づいてきて怒鳴る店番。

店主「お前らは泥棒だ！　どこかに行きやがれ」

店番「ここに来るんじゃねぇ！　乞食どもが」

主人公、慣れた感じで無視して進む。

【脚本では説明しにくいですが、客を歓迎してない、全員泥棒として扱って接客してる態度でお願いします】

○クラブ・内（？）

無音。みなイヤホンでバラバラな曲を聴き、バラバラに踊っている。

彼女、テンション高めで踊っている。

主人公、周りを見渡し何か飽きた顔をする。  
  
そんな中ひとり壁で逆立ちをする女を見かける、主人公が彼女のダンスよりも逆立ちする女を見る、目が合う。

○クラブ・外（夜）

彼女「いやー楽しかったね」

主人公「うん」

彼女「じゃあ私終電あるから、また」

主人公「じゃあね」

○道（夜）

主人公、クラブから逆立ちする女が出てくる

またしても目が合い、気づかないふりをしてしばらくしたあと、逆立ちする女のあとをつける

その様子を誰かが見ている

【後ろ姿と足のみ】

○商店街・道（夜）

主人公、女のあとをつける。

女が通った先では

シャッターの前でパイプ椅子に座っている店番のおっさんが怒鳴りつける。

店番「お前は泥棒だ！　どこかに行きやがれ」

店主「ここはお前の来るところじゃない」

女はスルーして通行

そして主人公の前に突然

着ぐるみ男「ここから出ていけ」

主人公、いつもは慣れているのでスルーするが今回は驚いて反応してしまう。

○秘密のバー・外（夜）

主人公、楽しそうに笑いながら集団と女が合流し店に入る姿を目撃する。

主人公、不審に思いながらも飽き飽きとした気持ちを満たすために秘密のバーに入る。

○秘密のバー・入口（夜）

支配人「いらっしゃいませ。見ない顔ですね。誰かの紹介ですか」

主人公「いや、偶然群団がこの店に入るのを見て。紹介制の店ですか？　なら帰ります」

支配人「いやいや、ここに来たのも何かの縁。きっと満たされたくて来たのでしょう？」

主人公、怪しいところに来たと若干後悔する表情。

支配人「ここに来る人たちはあなたと同じです。きっとここなら満たしてくれますよ」

主人公「あの、すいません大体このお店はチャージ料いくらくらい？」

支配人「そういう店ではない、とにかく入って」

主人公、流されるまま店の中へ。

○秘密バー・内（夜）

あぜんとする主人公。

いろんな人たちが組体操を行っている。

主人公「これは？」

支配人「組体操と言われる物です。」

主人公、歩きながら周りを見渡す。

支配人「どうですかな」

主人公、興奮気味に組体操をする人たちを見ている。

支配人「よかったら体験してみませんか」

主人公「え……」

支配人「さあ、迷わずあなたの本能で」

×××

主人公、様々な組体操を体験する。

×××

主人公、凄くうれしそうな顔をしながらいろんな組体操を体験する。

×××

扇になるやつとか、いろいろ。

×××

支配人「では、また」

○住宅街・道（夜）

人のいない住宅街を歩く主人公に、センサーが反応しライトが照らされ録音された罵声が流れる。

罵声「ここに来るんじゃない泥棒が」「乞食しても無駄だぞ」「犬の声」

主人公、それらも嬉しそうに何か楽しみを見つけたように歩く。

○クラブ・内（夜）（日変わり）

無音。

彼女、テンション高めで踊っている。

主人公、踊っているが、これじゃないと思い、途中で踊るのをやめる。主人公、イヤホンを外す。

主人公「ごめん、このあと用事あったんだわ」

彼女、主人公を見る。

主人公「ごめん先帰るね」

彼女「そう、私もう少し踊ってから帰るわ」

主人公、彼女と別れる。

２人の後ろにいたフードを被った集団が彼女を見つめる。

○秘密のバー・内（夜）

一通り組体操を楽しんだ主人公、そんななかある組体操（サボテン）を見かける。

支配人「あちらのものが気になりますか？」

主人公「はい」

支配人「あれは究極の信頼です。お互いに絆が深くつながっていることを確かめる行為です。一人が体を支えもう一人はそれを信じて体を預ける。それにより絶妙なバランスが生まれる。まさに究極の信頼なのです」

主人公「なるほど」

支配人「これはぜひ大切な人とやってもらいたい組体操です」

主人公「大切な人」

支配人「もしあなたに大切な人がいるならぜひ誘ってみてください」

主人公「今度連れてくるよ」

○道（？）（日変わり）

彼女「ねークラブ行こうよ」

主人公「クラブじゃなくて、別のとこ行かない？　すごい場所発見したんだ」

彼女「え～、せっかく新しいダンスシューズ買ったのに。それに今日クラブに行く気分で動いてたから。今度じゃだめ？」

主人公「わかった、じゃあまた今度。クラブ楽しんできて」

彼女「はーい、じゃあね～」

彼女と別れる主人公。またしても怪しいフードを被った集団が彼女を睨んでいる。

○秘密のバー・外（夜）

主人公、中に入る。

誰かが追っていて後ろに人影が写る。

○秘密のバー・内（夜）

本日ピラミッドデイの看板。

主人公、靴を脱ぐ。

○商店街・道（夜）

歩く彼女。その先には、クラブの怪しいフードを被った集団。

彼女「……」

彼女、逃げる。

【組体操と暴行を交互にうつしてください】

○秘密のバー・内（夜）

主人公、ピラミッドの頂上に上ろうとする。

○道（夜）

彼女、暴行される。

○秘密のバー・内（夜）

主人公、上るために肩に手をつく。

○道・外（夜）

彼女、肩が押される。

○秘密のバー・内（夜）

主人公、登るために足を乗せる。

○道・外（夜）

彼女、蹴られる。

○秘密のバー・内（夜）

主人公、登るためにこぶしを背中に。

○道・外（夜）

彼女、殴られる。

○秘密のバー・内（夜）

登りきる主人公。

○道・外（夜）

踏まれる彼女。

○秘密のバー・内（夜）

バランスを崩して崩壊するピラミッド。

○道・外（夜）

ボコボコにされて倒れる彼女。

○秘密のバー・内（夜）

ピラミッドには失敗したけど、達成感で笑う人たち。

○道・外（夜）

彼女をボコボコにして笑う集団。

○秘密のバー・内（夜）

解散するピラミッド。

○道・外（夜）

倒れてる彼女に近づく集団。

○大学・広場（日変わり）

群団就職の練習。

○大学・教授室

主人公「いえ、知りません。インフルになって倒れたかも？　最近よく遊んでましたし」

教授「そうか、ほかの人に聞いても連絡が取れなくて」

○？

主人公、スマホを見るが彼女から連絡はきておらず、既読もついていない。まあいいかと思い、秘密のクラブへ向かう。

○秘密のバー・内（夜）

【ここからは監視カメラ視点で】

支配人「いらっしゃいませ」

支配人、突然刑事に殴られる。

警察隊がクラブに突入。クラブにいた人全員が警察にボコボコにされる。

○秘密のバー・外（夜）

主人公、歩きながらクラブに向かうが、そこには警察がいて封鎖されている。

警察、一斉に主人公の方を見る。

主人公「……」

主人公、全力で走り出す。

○商店街・道（夜）

主人公、逃げるように走る。

その先にはクラブの怪しいフードを被った集団が待ち構えている。

いったん引き返すも後ろにも回り込まれる。

主人公、襲われる

主人公「うあ～やめてくれ～」

などと悲鳴をだす主人公。

店番「ここはお前の来るところではない」

店主「今すぐここから出ていけ」

着ぐるみ男「お前は犯罪者だ！　近寄るんじゃない」

暴行中にも関わらず、いつものように罵声を浴びせる。**【夜なのに店番？】**

○大学・教授室

主人公、ボコボコにされ包帯などを巻いてる。

教授、険しい表情。

主人公、ひたすら頭を下げる。

○大学・食堂

主人公、定食を食べている。

友人、前に座る。

友人「お前、まさかそのケガ？」

主人公「ケガはもう大丈夫。でも留年確定」

友人「もしかして警察に巻き込まれた？」

主人公「警察？　なんで警察？」

友人「え、違うの？」

主人公「どういうこと？」

友人「いや、お前が夜な夜な怪しいクラブに出入りするのを見かけて、ずっと心配してたんだよ。もしかしたら怪しいことに巻き込まれているんじゃないかって」

主人公「いや、あれは怪しくなんか」

友人「大丈夫、通報したときにお前のことは一切言わなかったから。ただ怪しい群団がいる、もしかしたら危険集団かもって言っただけ」

主人公「いや、あれは危険じゃ」

友人「心配だったんだよ、彼女も最近ノリ悪いとか言ってたし、もしかしたら悪い集団に巻き込まれてんのかもって」

主人公「いや、だから」

友人「彼女だって、商店街で集団に襲われたってのに」

主人公「襲われた？」

友人「聞いてないの？」

主人公「いや、全然知らないし、あ、連絡がつかないとは聞いてたけど」

友人「いま、有坂中央病院で入院中だって」

主人公「ちょっと待って、なんでここまで知っているんだ？」

友人「それは、好きだから……君が」

主人公「は？」

友人「実は自分ホモセクシャルで」

主人公「しってる」

友人「え？」

主人公「みんな知ってる」

友人「あ、そうなの」

主人公「だいたいわかる」

友人「あと、ストーキングも少々、この気持ちわかるかな」

主人公「少しは」

友人「とにかく君が無事でよかった、いくら自己責任でもお前が悪かったで済ませたくないじゃん、それだと取り返しのつかないことが起きちゃうし、やっぱり君が大切だから」

話を遮るように

主人公「……彼女が襲われたことを何でしっっている？」

友人「それは、いつも通りつけてたら、偶然襲われてる現場を見かけて」

主人公「なんで、通報しなかった？」

友人「え？」

主人公「（怒りながら）なんで？　なんで通報しなかったんだよ、俺の方はしたくせに」

友人「」

主人公「なんだ、彼女がいなくなれば都合がよいと思ったんだろ」

友人「ちがう」

主人公「（胸ぐらを掴み）ずっと見てたんだな」

友人「いやちゃんと救急車は呼んだ」

主人公「じゃあなんで途中で止めなかった」

友人「いや、襲われたのは彼女が夜道を歩いてた自己責任だし」

主人公、友人をぶん殴る。

主人公「（馬乗りで殴りながら）何が大切にしてるだ。お前のせいでな、お前のせいでな」

友人「ちょっとまって、人のせいになんか、あの女にホイホイ付いていったこともこっちは知ってんだぞ」

主人公「関係ないだろ」

友人「君が悪い」

主人公「お前が悪い」

友人「何が悪い」

主人公「何もかもだ」

乞食たちが一斉に食べ物へまっしぐら。

主人公、馬乗りになって殴り続ける

【カメラは引いていく】

○病院・病室

【カメラは二人一緒に写すように】

主人公「体は大丈夫？」

彼女「しばらく通院は必要だけど、すぐに退院できそうだよ」

主人公「そっか」

彼女「ごめんね、心配かけたくなくて黙ってたんだ……こんなことになっちゃって、私の責任だよ」

【そしてここからは一人のみしかカメラに人を映さない】

主人公「……そうだ、君の責任だ。夜道を歩いたんだから」

彼女「そうだよね、私が悪いよね」

【ここの会話は恨みとかないです。普通に明るく怒りもなく、理想的な平和的な会話風でお願いします】

主人公「それが社会なんだからちゃんと行動に責任をもたないと」

彼女「次からは気を付ける」

【気持ち悪いぐらい平和的な会話でお願いします】

主人公、帰る支度を始める。

【ここからは主人公のみ写す】

主人公「んじゃ、帰るわ」

彼女「あ、ねぇ」

主人公「ん？」

彼女「退院したら行こうよ」

主人公「？」

彼女「ほら言ってたじゃん。すごい場所見つけたって」

主人公「あぁ」

○主人公の部屋・内

主人公、ＰＣゲーム（フォートナイト）をする。ドアのチャイムが鳴る。主人公、立ち上がる。

○主人公の部屋・外

主人公、ドアをあける。

【誰が来たのかはわからないように映す（彼女か友人か警察か）】